演目の説明

天の岩戸（あまのいわと）

　弟の須佐之男命（すさのおのみこと）の悪行を嘆いて太陽の神様、天照大神が天の岩戸に隠れてしまったため、この世は闇に包まれてしまいました。困った神々は、天照大神を誘い出し、再び世の中を輝かすために天宇受賣命（あめのうずめ）に舞を踊ってもらうこととなりました。

　外の華やいだ雰囲気が気になり、女神が岩戸を少し開けたところ力自慢の天手力雄神（たぢからおのみこと）がこじ開け、世の中が再び光に満たされます。
　「古事記」神話を題材として、太陽の神を讃える演目で、日本人の自然崇拝の源を伝える演目です。

見どころ

　「芸北神楽」では昔から特別な演目とされてきました。岩戸が開くとき、荘厳な雰囲気を出すために大がかりな背景画を描いたパネルを使ったりする場合もあります。